

令和 かわら版

第27号
諏訪形自治会
会長山越敏雄

諏訪形自治会と真田自治会の

自治会交流会がありました

諏訪形自治会では、伊那市西春近諏訪形区、上田市真田自治会と友好自治会として交流を続けています。諏訪形と真田とは、真田幸隆公の関係で縁の深い地域です（詳しくは「諏訪形誌」四十九、五十ページ「真田氏と諏訪形三百貴文」などを参照ください）。このように歴史的名つながりに思いを馳せ、二〇二〇（平成三十二）年一月二十四日、真田自治会と諏訪形自治会は友好自治会の協定を締結しました。調印は真田家の菩提寺である長谷寺で、当時の真田地域自治センター長笠原茂正さんと長谷寺住職宮下博一さんの立ち会いのもと、諏訪形自治会長宮下修身さんと真田自治会長松原進さんによって行われました。この協定によって、両自治会は友好を進め、互いに協力して活動していくことを目指しています。



本年は諏訪形自治会の役員を中心に十三人が真田を訪れ、真田自治会（地域づくり委員会）の皆さんや「ボッチャの会」の会員の皆さんなど十九名の皆さんと意見交換や交流を行いました。交流会ではまず、「現在真田で大流行中」という「ボッチャ」で交流しました。ご存じのとおり「ボッチャ」はパラリンピックの正式競技にも採用されている、誰にでもできるスポーツです。

真田ボッチャの会の山口さん（代表）の説明の後、諏訪形・真田混成の四チームに別れての団体戦を行いました。諏訪形の皆さんは初めて体験する方も多かったようですが、やってみるとなかなか熱の入る競技です。

その後、それぞれの自治会の活動の様子を紹介したり、問題点について意見交換を行ったりしました。当日、真田自治会の文化祭の日でもありと盛りましたが、地域としてのまとまりと盛り上がりを感じました。

なお、真田自治会の公民館は新築五年目ですが、建築にあたっては諏訪形自治会の公民館も参考にされたとのことでした。

両自治会は今後の協力と意見交換、友好を約束して散会となりました。



学童保育所「ふれんど」の子どものための

サツマイモ掘り 体験会

「諏訪形さつま芋の会」は「諏訪形まちづくり協議会」と、諏訪形自治会が運営する農園「坪八農園」の耕作有志の皆さんで構成されています。この会のメンバーを中心に、昨年からは旧坪八農園隣の遊休農地を活用しての「サツマイモの栽培」を行っています。

昨年は、収穫したサツマイモを城下保育園に寄付して、たいへん喜ばれました。また、残った芋はJA城下収穫祭で販売し、六〇〇円の売り上げがあったとのこと。本年は天候に恵まれず、芋掘りが二回に渡って延期となつてしまいました。十月七日に学童保育所「ふれんど」の子どものために「サツマイモ掘り体験会」を行いました。

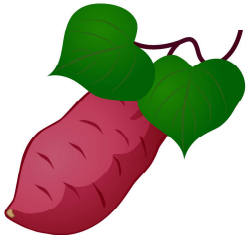
子どもたちの収穫体験に先立つてまず、「諏訪形さつま芋の会」の八人ほどのメンバーが、硬くしまった畑にスコップを入れて畝を掘り起こし、子どもたちが収穫しやすくするための作業を行いました。

三時半少し前、先生に引率されて「ふれんど」の小学校低学年の子どもの十三人が芋掘りに来ました。子どもたちは、大人たちに手伝ってもらいながら、「こんな大きいのが掘れたよ」とニコニコ。「焼き芋にしたい」「てんぷらが好き」などと楽しそうに話していました。四時過ぎには、交代で高学年の子どもたち七人が芋掘りです。さすがに手際よく掘り上げました。



掘った芋は子どもたちが持ち帰ったり、学童保育所のおやつに使われたりするそうです。

なお、この日の様子は上田ケーブルビジョンで放映されたので、ご覧になった方もおられると思います。また、東信ジャーナルでも紹介されました。



諏訪形公民館主催

「人権講座」が開催されました

令和六年度の人権講座は「聴覚障がい者の生活と手話」というテーマで、上田市聴覚障害者協会役員の勝見定弘さんと手話通訳士の中村直子さんを講師としてお招きして、十月十二日（土）に行いました。まず、中村さんから聴覚に障がいがあると、どのような困難さがあるのかを、災害が発生した場合を例に説明がありました。「避難していただく」という放送があっても聞こえないので、何が起きているのか分からずに逃げ遅れてしまう。避難所に来ても食事の提供や物資の配給があってもその情報がわからずに支援が受けられないことがある。そうしたときに、周りの人が気がついて教えてあげると困難な状態を克服できる。そのためにも聞こえない人と接した経験が大切になってくるということです。

また、聞こえない人が落とし物をしたとき、後ろの人が「落とし物しましたよ」と伝えてもわからないまま行ってしまった。後ろの人は「教えたのに無視をされた」と感じてしまう。そのような人間関係の行き違いが時々起きてしまう、との話もありました。そして、具体的に支援するためにどのような方法があるかも説明していただきました。

次に、聴覚障害者協会の勝見さんからプロジェクトで写真を写しながら、ろう学校での生活、川久保製作所での仕事の様子や高い技術で表彰を受けたこと、聴覚障害者協会での活動の様子などを手話通訳をとおしてお話いただきました。



その後、上田市人権啓発推進委員の柳澤富美子さんから、学校で耳の聞こえないお母さんをお呼びして「聞こえないことはどんなことか」を学習した事例の紹介がありました。子どもの立場からの、聞こえないお母さんが教室に来ることについての不安。それが学習を通じて「ぼくのお母さんはすごいんだ」と気がつくという心の動きも教材の中で取り上げていました。実際の授業の様子を元に実名を使って教材を作ったとのこと、学校でも真剣に取り組んでいる様子が分かりました。

最後に簡単な手話を一緒に表現し、質疑応答となりました。参加いただいた方は二十一人と決まっていますが、たくさんの方が、たくさんの質問があり熱意あふれる講座となりました。

いただいたアンケート十五枚の内訳は「非常にためになった七枚」、「ためになった七枚」、「未記入一枚（手話通訳を見ることがなかったため）」と記入したと記入いただきました。感想などを少し紹介させていただきます。

- ・身近に聴覚障害の方がいらつしやらないので新鮮な気持ちで参加させていただきました。聴覚障がいの方とお会いしたら教えていただいた手話を使ってみたいです。
- ・聴覚障がいの方が手話という方法を使ってお話をしていて、通訳をしていることを直接拝見することがなかったのでありがたかったです。
- ・今日の日が来るのを心して待っていました。すばらしかったです。
- ・聴覚障がい者の方の講演は初めての経験なので、今までの人権講座とはひと味違ったものでした。

なお、今回の講座の開催に当たり、金井保芳さんにプロジェクトを借りる手続きをしていただきました。ありがとうございました。投稿・諏訪形公民館長 稲垣康史さん

第二回 城下消防祭が開催されました

十月二十日(日)秋晴れでしたが寒さも感じられる中、南小学校の校庭で城下地区の「消防まつり」が開催されました。今回は親子連れの皆さんを中心に八百人以上の皆さんのご参加いただきました。

「消防まつり」は開会式の後、三好町保育園児による「やまびこ太鼓」の演奏で威勢よく始まり、その後、各消防団による放水や消防自動車、消防艇、煙体験、AEDの講習会、はしご車試乗などいろいろな体験ができるイベントがぎやかに行われました。

特に人気があったのは「はしご車試乗」でした。

これは二十四組限定ではしご車に乗車し、高くまで上がる体験でした。またフールドバンク(焼き鳥)も人気でした。

会場には「六文銭土ウエィダー」も参加し、各ブースで親子連れの皆さんとの写真撮影に応じて人気を集めていました。

このような活動を通じて消防団の仕内容への理解を深めていただくと同時に、防火・防災についての意識を高めていただけたら、と思いました。

投稿：諏訪形副自治会長 水石 康さん



諏訪形公民館 秋の大掃除

十月十九日(土)、例年二回行われている諏訪形公民館大掃除が行われました。

朝九時から、第六ブロック三十五人の、大勢の皆様のご協力で実施しました。大広間、調理場周り、和室会議室、玄関回りに内外の草刈り、窓ふきなどを隣組毎に分担して清掃していただきました。外回りでは高い所のクモの巣、ハチの巣の駆除までやっていただきました。

皆さん手際よく作業していただきました。ご協力ありがとうございました。なお、次回来春は第七ブロックの皆様を予定しております。よろしく願いいたします。

投稿：諏訪形副自治会長 水石 康さん



かてりやの会講演会

介護予防と健康終活について が開かれました

諏訪形シニアクラブかてりやの会では十月十六日(土)、「介護予防と健康体操」「終活について」その三の講座を開催し、会員及び一般の皆様合計二十七人と多数の参加を頂きました。

「介護予防と健康体操」は城下地域包括支援センターと(株)BCFの健康運動指導士の井澤美咲さん、「フレイル」及び「認知症」予防の心がけのお話を頂き、合わせて各種ストレッチについても指導いただきながら全員で体を動かしました。これを機に毎日少しでも体を動かせば効果もあるでしょう。

「終活について」その三では、かてりやの会会計の金井さんに講演頂きました。金井さんは「AFP(ファイナンシャルプランナー)」有資格者で過去二回講演頂き、今回が三回目です。「世帯分離」を中心にお話を頂きました。

「世帯分離」は、収入が少ない親等の家族の医療費や介護費用等を抑え経済的負担を減らすための一つの手段ですが、所得税や住民税等の納付額は変わりませんので節税対策ではありません。家族構成に變化が生じた時や、親等が施設に入所した時などに行う事ができます。内容が複雑で一度で理解はできませんが、このような手段がある事を学ぶことが出来て非常に有益でした。

投稿：かてりやの会事務局長 宮下修身さん

十月の健康講座・ふれあいお茶会

十月二十四日(木)午前、諏訪形副自治会・かてりやの会・諏訪形社会福祉協議会主催の「健康講座」と今年最後の「ふれあいお茶会」を、六十五歳以上の方を対象に開催、三十七人の方に参加いただきました。

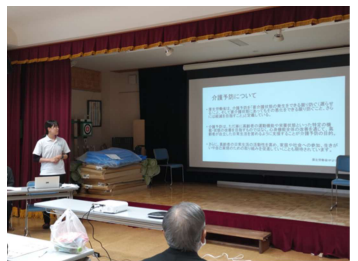
「健康講座」は、晩秋そしてこれから寒い冬を迎える家にもなる時間が多くなることから、健康管理の一助になればと室内で誰でもできる体操を計画しました。しかし、今年は十月下旬になっても散歩や屋外での運動もできる暖かい日が多く、もう少し遅くても良かったのかと思ひました。

講師には、上田市社会福祉協議会の二人にお願いし、高齢者でもできる「血行が良くなる」、「筋肉をほぐす」体操やストレッチを中心に良く通る声とユーモアのある分かり易い模範演技で参加者の多くの方が感心したり、笑ったりの時間となりました。最後に頭の体操「足踏みと負けるじゃんけん」をペアで実施し笑いの中、一時間の講座を修了しました。

その後、休憩時間をはさみ二人の講師の方にも参加いただき、「ふれあいお茶会」を開催しました。多くの方のおしゃべりやふれあいを楽しんでいたいただき、おわりに「諏訪形賛歌」を全員で合唱し、無事終了しました。

今年の「ふれあいお茶会」は、「高齢者のふれあい・健康管理の一助」と「民生児童委員活動の補助」などを目的に、年六回(二月、三月、七月、八月、九月、十月)開催しました。来年の開催にあたり要望やアドバイスがあれば遠慮なくお寄せいただければ幸いです。参加いただいた皆様や開催にご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

投稿：諏訪形社会福祉協議会長 西條和男さん



諏訪形公民館の「お宝」紹介 その2



公民館南側(奥)の和室の西側壁面には、対になる二幅の掛け軸が飾られています。これは、公民館新築祝いとして地域の方(本人のご希望でここでは匿名とさせていただきます)からいただいたものです。きれいに表装した上でご寄贈いただきました。

この掛け軸は稲川光風の作品とのことです。光風は一九〇四(明治三七)年茨城県生まれ。今井爽邦の弟子で、狩野派直系の日本画家、水墨画研究家です。日本美術協会展や日本画展にも入選し、山水画や人物画を得意とした人です。一九八九年に美術年鑑にも掲載されました。

公民館を訪れていただいた際には、一度鑑賞してみてください。

水天宮

「水天宮」は水上交通の守り神であると同時に、子どもを守る神でもあります。諏訪形の水天宮は千曲川の堤防道路、諏訪形グラウンドに降りていくあたりの道路南側にあります。

このあたりは、昭和二十年代後半まで千曲川を渡る「渡し船」の船着き場があったあたりで、この場所に水上交通の守り神が置かれていることはわかる気がします。

水天宮の「扁額」はだいぶ傷んでいましたが、本年、諏訪形書道クラブを指導してくださっている両角閑堂先生に揮毫していただき、新しいものになりました。散歩の折にはちょっと立ち寄ってみてください。

